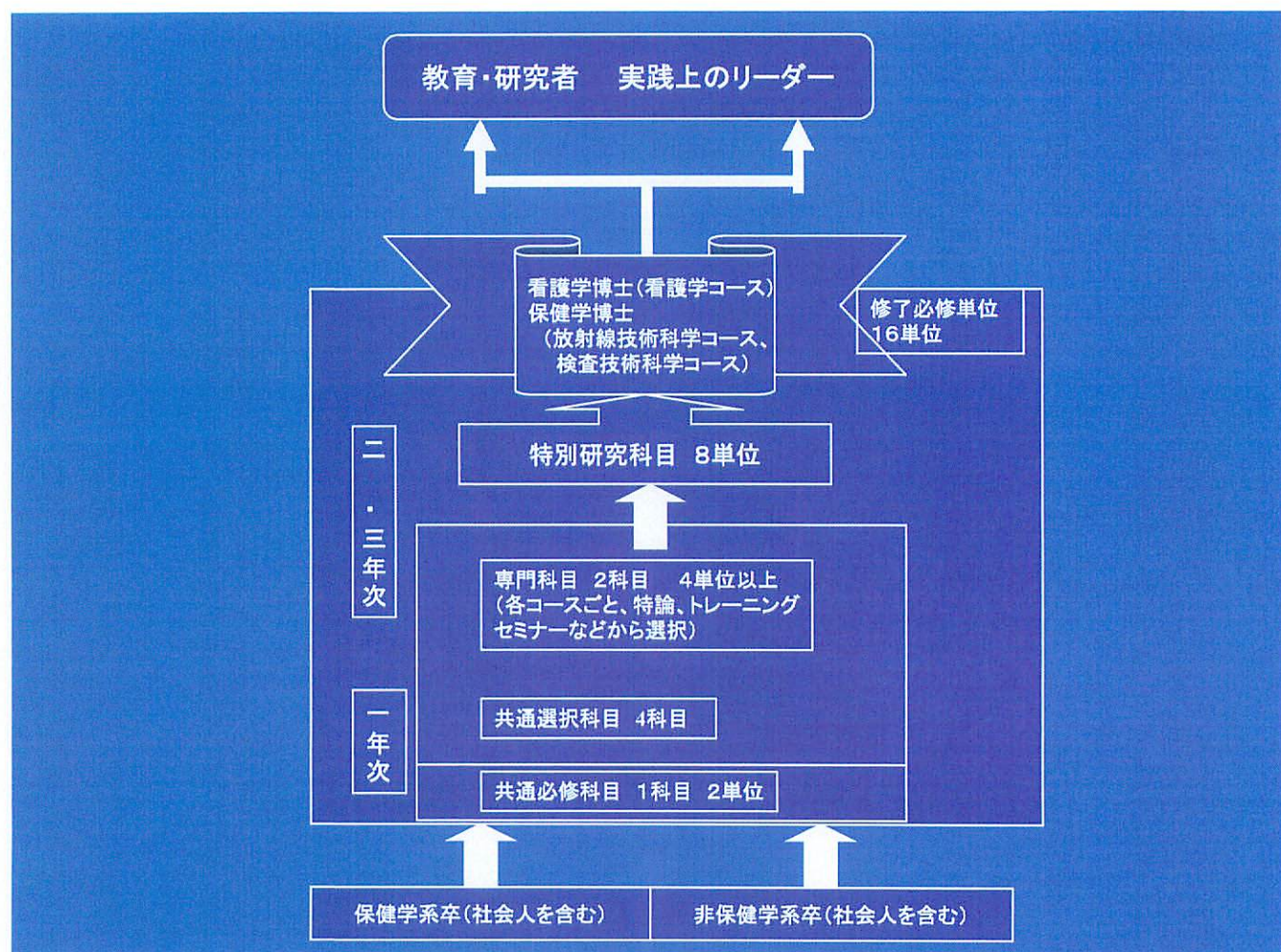


教育課程の構造図



国立大学法人東北大学職員就業規則（関係部分抜粋）

〔平成16年4月1日〕
規 第 4 6 号

（退職）

第20条 職員は、次の各号の一に該当するときは、退職とし、職員としての身分を失う。

- 一 自己の都合により退職を願い出て承認されたとき、又は退職を願い出る文書を提出して14日を経過したとき。
- 二 定年に達した日以後における最初の3月31日を終えたとき。
- 三 期間を定めて雇用されている場合において、その期間を満了したとき。
- 四 休職期間（休職を更新された場合には、その期間を含む。）が満了し、休職事由がなお消滅しないとき。
- 五 死亡したとき。

（定年）

第22条 職員の定年は、次のとおりとする。

- 一 教員の定年は、満63歳とする。ただし、歯学部附属歯科技工士学校の教員の定年は満60歳とする。また、職務の特殊性等を考慮し、総長が特に必要があると認めた者については、この限りではない。
- 二 前号以外の職員の定年は、満60歳とする。ただし、庁舎の監視その他の庁務及びこれに準ずる業務に従事する職員の定年は、満63歳とする。

看護学コース履修例

1-① 基礎・健康開発看護学領域 (「教育者・研究者」養成型)

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の看護学コースを修了した学生

2. 目標進路

修士課程の研究テーマを発展させ、独立して研究を遂行し、看護学における研究者・教育者への従事を目標とする。

3. 博士論文テーマ

『呼吸・循環動態の変化からみた体位変換評価法の開発』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2					2	
共通選択科目								0	
専門科目群	基礎・健康開発看護学セミナーⅠ	2	6					6	
	基礎・健康開発看護学セミナーⅡ	2							
	基礎・健康開発看護学特論	2							
特別研究	保健学論文研究			8				8	
計		8		8				16	

5. 履修内容の説明

保健学科を卒業後、看護師免許、保健師免許を取得し、本学保健学専攻修士課程の看護学コースを修了した学生であり、看護学領域の研究職あるいは教育職に就くことを目的とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の看護学、健康科学、医療の諸問題に対して意識を高める。基礎・健康開発看護学セミナーI、II と基礎・健康開発看護学特論によって、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、博士における研究テーマである『呼吸・循環動態の変化からみた体位変換評価法の開発』に関する研究を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、最終的には自ら研究成果を英文原著として報告できる能力を身につける。

1-② 家族支援看護学領域
社会人（長期履修）型
（「実践的指導者」養成型）

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の看護学コースを修了した社会人学生

2. 目標進路

修士課程の研究テーマを発展させ、医療の現場で臨床研究を継続し、高い専門性をもつ看護師として、高度な看護管理能力を発揮し、他職種と協同して効率的なチーム医療を実践し、看護学部門のリーダーとなることを目標とする。

3. 博士論文テーマ

『包括的がんサポートシステムの構築と評価に関する研究』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2							2	
共通選択科目	看護システム管理論	2	2							2	
専門科目群	家族支援看護学セミナーI	2	4							4	
	家族支援看護学特論										
特別研究	保健学論文研究			8						8	
計		8		8						16	

5. 履修内容の説明

看護師免許を取得し、がん専門病院に看護師として勤務してきたが、仕事を行う上で遭遇した問題を解決し、がん患者への適切なケアを提供することを目的に本学保健学専攻修士課程の看護学コースに社会人入学し、修了した学生である。修士課程での研究をさらに発展させ、がん看護の専門性を高めた看護部門のリーダーとして他職種と協同してがん患者へサポートできる高度な能力を持つことを目標とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の看護学、健康科学、医療の諸問題に対して意識を高める。また、共通選択科目の看護システム管理論を学び、看護管理能力を高める。家族支援看護学セミナーI、家族支援看護学特論によって、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、博士における研究テーマである『包括的がんサポートシステムの構築と評価に関する研究』を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、研究成果を英文原著として報告できる能力を身につけ、がん看護においても研究においても臨床看護学部門のリーダーとなる。

看護学コース履修例

1-③家族支援看護学領域 (「教育者・研究者」養成型)

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の看護学コースを修了した学生、あるいは文系・生命科学系の他大学院・他専攻の修士課程を修了した学生

2. 目標進路

独立して研究を遂行し、看護学・保健学における研究者・教育者への従事を目標とする。

3. 博士論文テーマ

『母親役割獲得過程における日本とオーストラリアの比較』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2					2	
共通選択科目	看護科学方法論	2	2					2	
専門科目群	家族支援看護学セミナーI	2	4					4	
	家族支援看護学セミナーII	2							
	家族支援看護学特論								
特別研究	保健学論文研究			8				8	
計		8		8				16	

5. 履修内容の説明

保健学科を卒業後、看護師、保健師免許を取得し、本学保健学専攻修士課程の看護学コースを修了した学生や文系・生命科学系の他大学院・他専攻の修士課程を修了した学生であり、看護学・保健学領域の研究者、教育者職に就くことを目的とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の看護学、健康科学、医療の諸問題に対して意識を高める。また、共通選択科目の看護科学方法論を学び、看護学研究能力を高める。家族支援看護学セミナーI、IIによって、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、『母親役割獲得過程における日本とオーストラリアの比較』に関する研究を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを世界的な科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、最終的には自ら研究成果を英文原著として報告できる能力を身につける。

看護学コース履修例

1-④家族支援看護学領域 (「実践的指導者」養成型)

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の看護学コースを修了した社会人学生

2. 目標進路

修士課程の研究テーマを発展させ、医療の現場で臨床研究を継続し、高い専門性をもつ看護師として、他職種と協同して効率的なチーム医療を実践し、臨床看護におけるリーダーなることを目標とする

3. 博士論文テーマ

『小児がんの子どもの処置に対する主体性と家族の役割に関する研究』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2					2	
共通選択科目								0	
専門科目群	家族支援看護学セミナーⅠ	2	6					6	
	家族支援看護学セミナーⅡ	2							
	家族支援看護学特論	2							
特別研究	保健学論文研究			8				8	
計		8		8				16	

5. 履修内容の説明

看護師免許を取得し、子ども病院に看護師として勤務してきたが、仕事を行う上で遭遇した問題を解決し、小児がん患者へ適切なケアを提供することを目的に本学保健学専攻修士課程の看護学コースに社会人入学し、修了した学生である。修士課程での研究をさらに発展させ、小児看護の専門性を高めた看護部門のリーダーとして他職種と協同して患者をケアできる高度な能力を持つことを目標とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の看護学、健康科学、医療の諸問題に対して意識を高める。家族支援看護学セミナーI、II、家族支援看護学特論によって、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、博士における研究テーマである『小児がんの子どもの処置に対する主体性と家族の役割に関する研究』を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、研究成果を英文原著として報告できる能力を身につけ、小児看護においても、研究においても看護部門のリーダーとなる。

2-① 医用情報技術科学領域 （「教育者・研究者」養成型）

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の放射線技術科学コースを修了した学生、あるいは理工系の他大学院・他専攻の修士課程を修了した学生

2. 目標進路

研究テーマを発展させ、独立して研究を遂行し、研究者・教育者あるいは、放射線機器製造企業、その他医療関係企業において放射線診療技術の研究開発への従事を目標とする。

3. 博士論文テーマ

『MRIの画質向上および非造影MRAの新しい臨床応用』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次	合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2				2	
共通選択科目							0	
専門科目群	医用情報技術科学セミナーI	2	6				6	
	医用情報技術科学セミナーII	2						
	医用情報技術科学特論	2						
特別研究	保健学論文研究			8			8	
計		8		8			16	

5. 履修内容の説明

保健学科を卒業後、診療放射線技師免許を取得し、本学保健学専攻修士課程の放射線技術科学コースを修了した学生、あるいは理工系の他大学院・他専攻の修士課程を修了した学生であり、放射線技術関連の企業における開発研究職や、放射線技術学領域の研究者職に就くことを目的とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の健康科学、医学、医療の諸問題に対して意識を高める。医用情報技術科学セミナーI、IIと医用情報技術科学特論によって、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、博士における研究テーマである『MRIの画質向上および非造影MRAの新しい臨床応用』に関する研究を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを世界的な科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、最終的には自ら研究成果を英文原著として報告できる能力を身につける。

2-② 生体応用技術科学領域 (「実践的指導者」養成型)

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の放射線技術科学コースを修了した学生

2. 目標進路

修士課程の研究テーマを発展させ、独立して研究を遂行し、医療の現場で臨床研究を継続し、専門性を高めた診療放射線技師として安全で効率のよいチーム医療を提供でき、診療放射線部門のリーダーとして従事することを目標とする。

3. 博士論文テーマ

『強度変調照射法に対応する治療計画法の研究』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2					2	
共通選択科目								0	
専門科目群	生体応用技術科学セミナーI	2	6					6	
	生体応用技術科学セミナーII	2							
	生体応用技術科学特論	2							
特別研究	保健学論文研究			8				8	
計		8		8				16	

5. 履修内容の説明

保健学科を卒業後、診療放射線技師免許を取得し、本学保健学専攻修士課程の放射線技術科学コースを修了した学生であり、医療の現場で臨床研究を継続し、専門性を高めた診療放射線技師として安全で効率のよいチーム医療を提供でき、診療放射線部門のリーダーとして従事することを目標とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の健康科学、医学、医療の諸問題に対して意識を高める。生体応用技術科学セミナーI、II と生体応用技術科学特論によって、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、博士における研究テーマである『強度変調照射法に対応する治療計画法の研究』に関する研究を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを世界的な科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、最終的には自ら研究成果を英文原著として報告できる能力を身につけ、診療においても研究においても診療放射線部門のリーダーとなる。

2-③ 生体応用技術科学領域
社会人（長期履修）型
（「実践的指導者」養成型）

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の放射線技術科学コースを修了した社会人学生

2. 目標進路

修士課程の研究テーマを発展させ、医療の現場で臨床研究を継続し、専門性を高めた診療放射線技師として安全で効率のよいチーム医療を提供でき、診療放射線部門のリーダーとなる実践的指導者となることを目標とする。

3. 博士論文テーマ

『MRI Tagging 法を用いた心機能評価能補開発に関する研究』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2							2	
共通選択科目	先端臨床医学	2	2							2	
専門科目群	生体応用技術科学セミナーI	2	4							4	
	生体応用技術科学セミナーII	2									
	生体応用技術科学特論										
特別研究	保健学論文研究			8						8	
計		8		8						16	

5. 履修内容の説明

保健学科を卒業して診療放射線技師免許を取得し、病院に診療放射線技師として就職したが、仕事を行う上で遭遇した問題を解決すべく本学保健学専攻修士課程の放射線技術科学コースに社会人入学し、修了した学生であり、修士課程での研究をさらに発展させ、医療の現場で臨床研究を継続し、専門性を高めた診療放射線技師として安全で効率のよいチーム医療を提供でき、診療放射線部門のリーダーとしてさらに磨きをかけることを目標とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論と共通選択科目である先端臨床医学の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の健康科学、医学、医療の諸問題に対して意識を高める。生体応用技術科学セミナーI、IIによって、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、博士における研究テーマである『MRI Tagging 法を用いた心機能評価能補開発に関する研究』に関する研究を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを世界的な科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、最終的には自ら研究成果を英文原著として報告できる能力を身につけ、診療においても研究においても診療放射線部門のリーダーとなる。

検査技術科学コース履修例

3-① 基礎検査医科学領域 (「教育者・研究者」養成型)

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程あるいは生命科学系の他大学院・他専攻の修士課程を修了した学生

2. 目標進路

独立して研究を遂行し、研究者・教育者あるいは、臨床検査企業、その他医療関係企業において検査技術の研究開発への従事を目標とする。

3. 博士論文テーマ

『クリプトコッカス感染症における免疫機能の解析と新規検査法の開発』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2					2	
共通選択科目								0	
専門科目群	基礎検査医科学セミナーI	2	6					6	
	基礎検査医科学セミナーII	2							
	検査医科学特論	2							
特別研究	保健学論文研究				8			8	
計		8		8				16	

5. 履修内容の説明

保健学科を卒業後、検査技師免許を取得し、本学保健学専攻修士課程の検査技術科学コースを修了した学生や、あるいは生命科学系の他大学院・他専攻の修士課程を修了した学生であり、検査学関連の企業における開発研究職や、検査学領域の研究者職に就くことを目的とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、ともすれば狭くなりがちな視野を広げ、現在の健康科学、医学、医療の諸問題に対して意識を高める。基礎検査医科学セミナーI、II と検査医科学特論によって、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、『クリプトコッカス感染症における免疫機能の解析と新規検査法の開発』に関する研究を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを世界的な科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、最終的には自ら研究成果を英文原著として報告できる能力を身につける。

3-② 臨床検査医科学領域 (「実践的指導者」養成型)

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、臨床検査技師資格を有して、本学保健学専攻修士課程の検査技術科学コース、あるいは他大学の修士課程を修了した学生

2. 目標進路

独立して研究を遂行し、医療の現場で臨床研究を継続し、専門性を高めた臨床検査技師として安全確かで効率のよいチーム医療を提供でき、臨床検査部門の実践的指導者として従事することを目標とする。

3. 博士論文テーマ

『乳癌の性ホルモン依存性の機構の解析と新規病理検査法の開発』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2					2	
共通選択科目								0	
専門科目群	臨床検査医科学セミナーI	2	6					6	
	臨床検査医科学セミナーII	2							
	検査医科学実験トレーニング	2							
特別研究	保健学論文研究				8			8	
計		8		8				16	

5. 履修内容の説明

保健学科を卒業後、臨床検査技師免許を取得し、大学院修士課程の検査技術科学コースを修了した学生であり、医療の現場で臨床研究を継続し、専門性を高めた臨床検査技師として安全確かで効率のよいチーム医療を提供でき、臨床検査部門のリーダーとして従事することを目標とする者が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論の履修により、昨今の医療の諸問題に対して意識を高める。臨床検査医科学セミナーI、IIによって、独立して研究遂行可能な能力を涵養し、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につける。また、検査医科学実験トレーニングによって、マイクロアレイ等高度な実験技術を身につける。博士における研究テーマである『乳癌の性ホルモン依存性の機構の解析と新規病理検査法の開発』に関する研究を発展させる。保健学論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを世界的な科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、最終的には自ら研究成果を英文原著として報告できる能力を身につけ、高度専門職業人の養成教育能力を有する臨床検査部門のリーダーとなる。

検査技術科学コース履修例

3-③ 基礎検査医科学領域 社会人（長期履修）型 （「教育者・研究者」養成型）

1. 対象学生

当該領域に興味を抱き、本学保健学専攻修士課程の検査技術科学コースを修了し、病院や企業に就職しつつも、将来検査医科学領域における教育者・研究者を目指す学生

2. 目標進路

修士課程の研究テーマを発展させ、独立して研究を遂行し、研究者・教育者あるいは、臨床検査企業、その他医療関係企業において検査技術の研究開発への従事を目標とする。

3. 博士論文テーマ

『新規ペプチド、アドレノメデュリン2の生理機能の解析と検査学への展開研究』

4. 履修科目

区分	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	備考
共通必修科目	健康科学論	2	2							2	
共通選択科目	分子医科学	2	2							2	
専門科目群	基礎検査医科学セミナーI	2	4							4	
	基礎検査医科学セミナーII	2									
特別研究	保健学論文研究			8						8	
計		8		8						16	

5. 履修内容の説明

本学保健学専攻修士課程の検査技術科学コースを修了し、病院に検査技師として、あるいは企業に就職した学生であるが、将来の教育者・研究者を目指し、社会人として長期履修で博士を目指す学生が履修するコースである。共通必修科目である健康科学論や分子医科学は、インターネットを利用した本学の履修システムである ISTU を用いて履修し、現在の健康科学、医学、医療の諸問題に対して意識を高めるとともに、最新の基礎医学領域の知識を得る。基礎検査医科学セミナーI、II は、夜間、休日や、夏期・冬期の長期休暇を利用して行い、英文原著の批判的読解力や外国語による情報発信能力を身につけ、独立して研究遂行可能な能力を涵養する。『新規ペプチド、アドレノメデュリン2の生理機能の解析と検査学への展開研究』のテーマにて保健学論文研究を行い、基礎研究を実地に応用可能な展開研究能力を身につける。

平成21年度大学院医学系研究科保健学専攻修士課程授業時間割

1セメスター

		「共」：共通科目 「看」：看護学コース 「放」：放射線技術科学コース 「検」：検査技術科学コース						
		1	2	3	4	5	6	7
月		8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30	19:40～21:10
火	専攻							
	共					ゲノム検査学概論	高橋 保大講	
	看	小児看護学特論Ⅰ 塩飽 保3演				看護アセスメント 丸山 保1演	看護アセスメント 学特論Ⅱ 丸山 保1演	
	放							
水	検	病理検査学セミナー 鈴木	感染分子病態 解析学セミナーⅠ 川上 4P実習班					
	共					医療倫理・安全管理論	清水・藤盛 保大講	
	看	小児看護学特論Ⅱ 塩飽 保3演	リエゾン精神看護学特論 塩飽 保6講	国際看護管理学 特論Ⅰ 平野 保3演	がん看護学セミナーⅠ 根本 保1演			
	放		放射線治療学特論 高井 保1演					
木	検	臨床生理検査学 セミナーⅠ 池藤 保1演						
	共					先端放射線診断技術学特論Ⅱ 町田 保1演		
	看		女性生涯看護学 特論Ⅰ 吉沢 保3演			病態検査学セミナーⅠ 吉田 保3演		
	放					先端放射線科学概 論 田村 保1演	看護学研究方法論 吉沢 保3演	
金	検	分子機能解析学セミナーⅠ 林 保1演	がん看護学特論Ⅰ 塩飽(18) 保1演					
	共		がん看護学特論Ⅱ 塩飽(18) 保5講					
	看		看護学概論 千田 保6講					
	放							
金	検		老年保健看護学特論 川原 保3演					
	共							
	看							
	放					医用画像工学特論Ⅱ 小山内 保1演		
金	検							
	共							
	看							
	放							

共通科目の「看護学研究方法論」は看護学コースの必修科目、「先端放射線科学概論」は放射線技術科学コースの必修科目、「ゲノム検査学概論」は検査技術科学コースの必修科目です。
「ゲノム医学」・「分子生物学実験トレーニング」について、日程等の詳細は別に指示します。
「倫理看護アブローチ」は、7月～8月に集中して開講します。

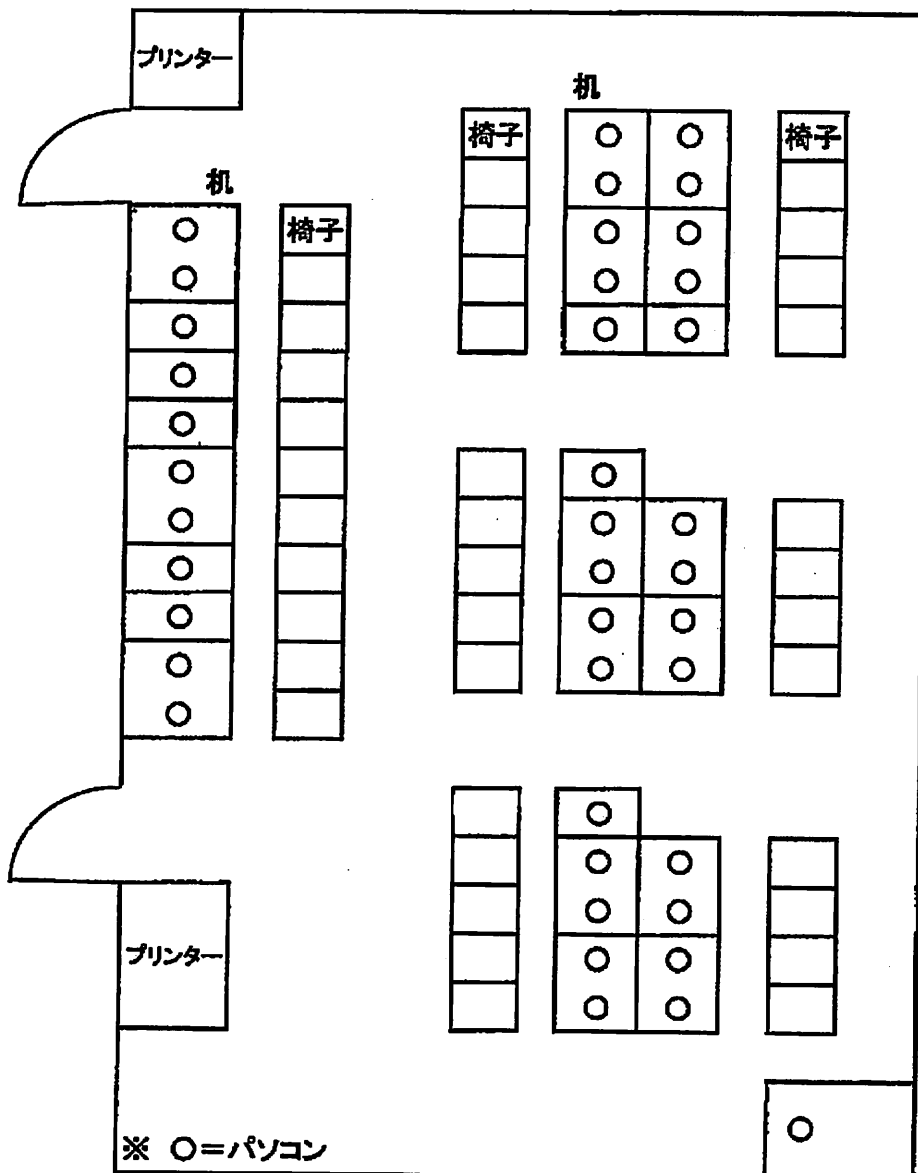
平成21年度大学院医学系研究科保健学専攻修士課程授業時間割

2セメスター									
講時 専攻	1	2	3	4	5	6	7		
	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30	19:40～21:10		
共					医療・看護政策論 末永 保6講	高橋 保大講			
看				地域保健看護学特論 末永 保1演	看護アセスメント学 セミナー	ゲノム検査学概論 丸山 保3演	地域ケアシステム 看護学特論 保1演	地域ケアシステム 看護学セミナー 保3演	末永 保3演
放									
検	病理検査学 セミナー	鈴木 鈴木	感染分子病態解析 学セミナーⅠ 川上 4F実習室						
共									
看			国際看護学 特論Ⅱ	平野 保3演	がん看護学セミナーⅡ 根本 保1演	女性生涯看護学特論Ⅱ		吉沢 保3演	
放									
検					医療教育論 小山田 保5講				
共									
看			小児看護学セミナー 塩飽 保1演						
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放									
検									
共									
看									
放	</								

「ゲノム検査学概論」は検査技術科学コースの必修科目です。
 検査技術科学コースの「ゲノム医学・分子生物学実験トレーニング」・「分析化学実験トレーニング」・「病理診断学トレーニング」・「臨床検査学トレーニング」
 について、日程等の詳細は別に指示します。
 「看護倫理」は、2～3月に集中して開講します。

情報科学実習室及び自習室見取り図

○情報科学実習室



○自習室(3箇所所有)

